

恵比須DEまちづくりネットワーク（佐賀県佐賀市）

佐賀の恵比須は日本一！

～佐賀の地域資源を生かした街づくり～

恵比須DEまちづくり
ネットワーク代表

むらい れいじ
村井 禮仁



1. 佐賀市の概要

佐賀市は、佐賀県の県庁所在都市で、人口約24万人を要する同県の最大の都市です。佐賀県の経済・行政の中心地であり、南は有明海から北は脊振山地まで縦断する広い市域を有し、市街地は佐賀平野の中心に位置します。

秋には嘉瀬川河川敷を中心に、アジア最大規模の佐賀国際バルーンフェスタが開催されており、現在、2016年の世界大会を誘致しているバルーンの街です。



[佐賀国際バルーンフェスタ]

2. 活動開始の背景・経緯

佐賀市には、街角の至るところに恵比須像があります。佐賀市民にとっては普通の風景で、市民の日常生活の中に溶け込んだ存在でした。

平成15年の当団体発足当初は、佐賀の街には多くの恵比須像があるという程度の認識で、その正確な数や所在も分かっていませんでした。

しかし、古くは江戸時代からある恵比須像は佐賀市民にとって貴重な地域資源であるとの認識から、まずは、その後の様々な活動の基礎となる恵比須像の所在調査から活動をスタートすることと致しました。

その中で、佐賀市の恵比須像の数が800体(平成17年の合併前の旧佐賀市では約400体)を数え、平成21年度には、様々な日本一を認定する機関から、正式に佐賀市は恵比須像の数日本一の街であるとの認定を頂

きました。

団体発足の翌年の平成16年から、試行錯誤の中で、市街地にある恵比須像の歴史やエピソードなどを説明しながら街歩きのガイドを行う“恵比須巡りツアー”を開始致しました。今年でちょうど節目の10年目を迎えるこの案内ガイドツアーは、実にこれまで約4,000名を案内する人気企画となっています。

約10名の黄色い法被のガイドが街歩きの案内する光景は、佐賀市民には見慣れた風景となっています。



[恵比須巡り案内ガイド風景]

3. 活動の広がり

恵比須像の案内ツアーをする中で、佐賀市民の間にも、徐々に、佐賀市は恵比須像が多い街であるとの認知度も広がっていききました。

恵比須巡りツアーを継続する一方で、佐賀の春の一大イベントである佐賀城下ひなまつりにおける恵比須展の開催や地元百貨店やショッピングセンター、公共施設などでの展示会を開催、また、YEBISU(サッポロ)ビールとの共同企画によるビアパーティ開催や、JR九州とのウオーキング企画、郵便局や地元菓子メーカーなどとの恵比須関連グッズの企画販売など、その活動は、市民団体の活動の域を超えて広がっていききました。

現在では、佐賀市の玄関口であるJR佐賀駅や佐賀空港、市役所や百貨店など、多くの施設に恵比須像が設置されており、佐賀の街のシンボ

ル的な存在として、広く市民に親しまれる存在になっています。



[企業との共同企画イベント]

4. 開運・恵比須八十八ヶ所巡り

恵比須像の数日本一を誇り、徐々に佐賀市民の中に恵比須の街佐賀が定着してきた平成22年にこれまでの活動の転機となる企画をスタートさせることになりました。

開運・さが恵比須八十八ヶ所巡りです。

これまでの事前予約が必要な恵比須巡りツアーと違い、スタンプラリーの台紙を兼ねた通い帳と呼ばれる冊子を片手に、参加者自身のペースで恵比須像を巡ることのできるこの企画で、佐賀の街の恵比須を巡る人が飛躍的に増え、恵比須の街佐賀のイメージを広く県内外に広めることにつながりました。

単に、恵比須像を巡るだけでなく、スタンプ(巡礼印)を預かる場所を店舗や観光施設としたことで、この八十八ヶ所巡りの参加者が必ずその施設を訪れる仕組みを構築し、地域経済への効果を生み出すことに多少なりとも寄与するような企画としたところが工夫をした点です。

この恵比須八十八ヶ所巡りの企画の最も大事なポイントを、巡礼印を預かるお世話人のおもてなしと位置づけ、日頃より、お世話人との意思疎通を図っています。単なるスタンプラリーにならないように、巡礼者(参加者)に佐賀人のホスピタリティを感じて頂き、佐賀のファンを増や

すことを目的に実施しています。

さらには、恵比須に関するご利益のエピソードをまとめて、情報発信。

夫婦円満、健康長寿、合格祈願、商売繁盛、交通安全、金運（宝くじ）や子宝安産など、ご利益の多かった恵比須像を、特に“七福恵比須”としてPRして、多くの祈願者が訪れるパワースポットにもなっています。



〔開運・恵比須八十八ヶ所巡り 通い帳〕

5. 活動の深化

恵比須を生かした活動の盛り上がりの中で、恵比須祭りを復活させた自治会、公民館や市民大学における恵比須講座の開催、小学校での総合学習、市民による恵比須音頭の踊り隊の結成など、地域住民の中に恵比須の存在が浸透してきている。店舗名や商品名など、恵比須を使用する例も増えてきています。



〔小学校での総合学習〕

また、近年では、恵比須にゆかりのある九州各地の自治体や街づくり団体等からの視察や講師依頼などが相次ぎ、その縁で、平成24年9月には、九州内5県8市から関係者が集う、“九州恵比須サミット in 佐賀”を開催。その後も、相互訪問など交

流を続けています。



〔九州恵比須サミット in 佐賀〕

6. 佐賀の街の世間遺産へ

これまで、佐賀市内に昔からある恵比須像を、大切な地域資源として認識し、街おこしの起爆剤として、磨き上げてきました。

しかし、恵比須像を観光資源、街おこしの資源としてみるだけでなく、歴史的・文化的な価値に着目して、その価値を整理するための考証作業を、平成24年度にスタートいたしました。

具体的には、当団体と佐賀市教育委員会と協働で作業部会を設置し、後世に残すための資料編纂作業をスタートさせたところです。

恵比須は、民間信仰の中で受け継がれてきたものであり、これまで、記録として残っている資料は、非常に少ないのが実情ですが、その中でも、新たに調査を行ったり、残された記録を再整理することで、佐賀市の貴重な地域資源としての位置づけを確固たる物としていきたいと考えています。

最近では、歴史的価値のある古い恵比須像の文化財としての登録を目指す動きも始めています。



〔佐賀市重要文化財〕

また、活動スタート当時は、「佐賀の街は、恵比須像がなんとなく多いよね。」という程度の市民の認識であったものが、この10年の恵比須を生かした街づくり活動の中で、「佐賀と

言えば恵比須だよね。」という市民が増え、飛躍的にその認知度を上げてきました。郷土のアイデンティティとしての住民意識の高まりを持って、恵比須像は、完全に市民権を得ることになったと思っています。

7. 今後の課題と展望

現在、平成25年度中の開設を目指して、当団体の活動拠点の機能も備えた恵比須の情報発信施設である「開運・恵比須ステーション(仮称)」の準備を行っています。

恵比須に関する資料の展示はもちろんのこと、カフェの運営やグッズの販売、講座開設や企画開催などを通して、恵比須の認知を高める活動をより強化していきたいと、メンバー丸となってその準備作業を行っているところです。

これまでなかった活動拠点を持つことで、更なる活動の活発化につなげていくとともに、恵比須巡りツアーや恵比須八十八ヶ所巡りでの来訪者へのおもてなしにつなげていく必要があります。

恵比須巡りツアーや開運・恵比須八十八ヶ所巡り、恵比須展示会などの観光を通じた街おこしの活動を積極的に展開していく一方で、地域の恵比須祭りの伝承、小学校や公民館、市民大学での講座実施、地元企業との協働事業の展開、歴史文化的側面からの考証作業など、地域に根ざした活動もしっかりやっていくことが、大切であり、そのためには、様々な街づくり団体や観光協会や行政機関、教育委員会等とも連携を図りながら、しっかりと地に足をつけた活動を展開していきたいと考えています。



〔JR佐賀駅構内に鎮座する恵比須像〕